



図4. WNV NS4B 蛋白質は細胞分裂の様々なステージに関与する。

Vero E6 細胞に pDsRed2-WNV-NS4B を導入し、感染後 48~72 時間に固定した。細胞核を DAPI (青) で、 β -チューブリン をその抗体 (緑) を用いて多重染色した (a-e)。あるいは、NS4B 蛋白質 (図中、白色透明部) 発現細胞の位相差像を観察した (f および g) 。各像は、点線で結んだイラストで示す細胞の様々な分裂像に類似する。

研究成果の刊行に関する一覧表（業績）

書籍

なし

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
Paresh Sumatilal Shah, Mariko Tanaka, Afjal Hossain Khana, Edward Gitau Matumbi Mathenge, Isao Fuke, Mitsuo Takagi, Akira Igarashi, Kouichi Morita	Molecular characterization of attenuated Japanese encephalitis live vaccine strain ML-17	Vaccine	24	402-411	2006
Wei-Feng Tang, Yuki Eshita, Masayuki Tadano, Kouichi Morita, Yoshihiro Makino	Molecular basis for adaptation of a chimeric dengue type4/Japanese encephalitis virus to vero cells	Microbiol. Immunol	49	285-294	2005
森田公一	西ナイル熱・脳炎： 最近の動向	長崎市医師 会報	39	14-16	2005
森田公一	ウエストナイル熱に対 するワクチン	臨床とウイ ルス	33	28-32	2005
森田公一	ウエストナイル熱	モダンファイ ジション	25	523-526	2005
森田公一	ウエストナイル熱とワ クチン開発の現状	感染症	35	91-96	2005
森田公一	フラビウイルスによる 疾患（ウエストナイル 熱、デング熱を中心に）	カレントテ ラピー	27	722-724	2005
森田公一	西ナイル熱の現状	Science Digest	31	548-549	2005

森田公一	ウエストナイルウイルス	Drug Delivery System	20	556-557	2005
小泉加奈子、中島由紀子、松崎真和、小井戸則彦、大曾根康夫、林昌宏、高崎智彦、倉根一郎、秋月哲史	本邦で初めて確認されたウエストナイル熱の輸入症例	感染症学雑誌	80	56-57	2006
林 昌宏、倉根一郎	ウエストナイルウイルス	日本臨床	63	321-323	2005
林 昌宏、高崎智彦	フラビウイルス脳炎-ウエストナイルウイルスを中心に-	臨床病理	53	721-727	2005
林 昌宏、高崎智彦	ウエストナイル熱/脳炎	遺伝	59	37-42	2005
林 昌宏、倉根一郎	ウエストナイルウイルスに関する最新の知見と対策	山口獣医学雑誌	32	1-12	2005
倉根一郎	アルボウイルス感染症におけるウエストナイル熱・脳炎の位置づけ	ウイルス	55	63-68	2005
倉根一郎	ウエストナイル熱・脳炎	臨床神経学	45	884-886	2005